研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-136		17-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol drinking patterns and risk of diabetes: a cohort study of 70,551 men and women from the general Danish population.

飲酒パターンと糖尿病発症リスク：70,551 名のデンマーク人一般集団のコホート研究

執筆者

Holst C, Becker U, Jørgensen ME, Grønbæk M, Tolstrup JS.

掲載誌

Diabetologia. 2017 Oct;60(10):1941-1950. DOI: 10.1007/s00125-017-4359-3

キーワード	PMID
アルコール消費、飲酒パターン、糖尿病	28748324

要　旨

目的：

デンマーク人一般集団において、男女別に飲酒パターンと糖尿病発症リスクの関連を明らかにすること。

方法：

2007-2008 年の the Danish Health Examination Survey に参加した 76,484 名（男性：28,704 名、女性：41,847 名）を対象に行った。飲酒パターンは、1 週間あたりの飲酒頻度、酒別消費量などが調査された。また糖尿病発症は、the Danish National Diabetes Register を用いて特定された。飲酒パターンと糖尿病発症の関連は、Cox 比例ハザードモデルを用いて推定し、ハザード比（HR）と 95%信頼区間（95%CI）を算出した。

結果：

対象者の追跡期間（中央値）は 4.9 年であり、男性 859 名、女性 887 名が糖尿病を発症した。飲酒者の、非飲酒者に対する、HR (95%CI) が最低であったのは、男性で週 14 杯飲酒する者であり、0.57（0.47-0.70）であった。また女性では週 9 杯飲酒する者で、0.42 (0.35-0.51) であった。 飲酒頻度別では、男女ともに、週 3-4 日の飲酒者が、週 1 回未満の飲酒者に対して、有意に糖尿病発症低リスクと関連していた（男性：0.73（0.59-0.94)、女性：0.68 (0.53-0.88)）

結論：

飲酒量と飲酒頻度は、糖尿病発症リスクが低いことと関連していることが明らかにされた。